# 宇治拾遺物語

初秋　二　止

今板本十五の巻二

古本十一の巻

田辺氏藏書

中野文庫

内閣文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を、ゆのかをるやうにて

松もけふよりやうふ秋のひろ〳〵あはやうれる

家やうのことを思つむとのうきまくをうて

ゆれし秋よ富をうさいかん出れ秋のひく

らをうのみ〳〵もをし。うれこゆる芙蓉大ねよ

まつう結ふ結ふうり結く。

松虫よ富をうさ秋風よあわひうれる

むをみしうむうて たうつう結て深山乃みうう

まつう結ふうりまつひく たうれよてもたくやを

うう〳〵秋ゆうう為れ

うれみくのくとうう秋〳〵ふ為秋かい出

のうひうつうれ。はしをうゆ〳〵けを出れ

うう結かうよう〳〵れ〳〵をうて。られふをのとい

うんと咲かれ。ふうう〳〵をいをうを出れ出て。ふ

らみよう人こうんを為て。ふううとあをを

うみをのうりのよつをん人ををうをうんりのをう

けい〳〵いひ〳〵秋うけむをの結ふを出く。をうんふれ

らを結くあをを人をのれをんをはうて出結

うんふうむいうよ。ふをゆひけく結〳〵ゆ〳〵ら

みをうれよいう〳〵とゆかり〳〵れて〳〵をされを

かれ後をもをうて。をうつかみをくをのを

つるれをゆをかりて。わをこれれ〳〵をうむ〳〵れ

もとよりなれいとうつかまつりしのこゝろは
ゆるしなくて、はるゝまつりきれて、一とうみうら
ゆゑ、二とうへ、はるゝうらて、いてのうへとを
ひらあやまちてこゝめをしりをまけをりぬる
へきこゝあるとこゝろ、はるてとゝめをまつまて
はるせこゝろ、をみこゝ、はるつゝまつるへくはるんたく
いみこゝ、はるつゝまきけりたらゝあるはの
ゆゑくれりいこむこゝみはあるこゝゆゑをこ
ゝろたるはゝこゝをけをりあるゝれゝるつゝひ
してつゝまつりのとゝるゝこゝをゆゑせ
られんとをゆゑんとゝるくゝゝあるをりて、みり

はゝこゝあるつゝこゝはゝをのうゝとゝて、をこゝ
はるゝ、をへゝはるゝくゝゝたくぬゝとゝたるりゝん
やゝこゝくゝゝぬゝをれゝこゝゝうゝけゝゝをけゝん
やゝはるゝゝゝゝけゝゝをゝりてのゝるゝむゝとゝけ
りゝをゝゝひゝつゝゝゝゝをゝゝをゝゝをゝのゝゝこ
ゝりゝゝゝゝへゝてゝゝれゝるゝむゝをゝのゝひゝゝゝよゝつゝゝま
つゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れはなをんといふものそこにやそれとつよはなをん
のちくものはなとあらうもなくてやまはなをらひら
えんするさはれあらうもなくてみをんはやを
ををくをうんよををくものをうひあふを
うよるうをやこれはをれあるむくみをれこ
ををうはくををうををんををひをの和んこ
をいやををくをしをしはるまををうひうはををを
ををくをこのをを紙和ををうれををくをををんうの
ををくをうをしをををよををををををんはやをくはく
はをも万をはのはををはあるををいはくをはの章
ををををうれをはををををををををををををををを

みをんををしをはいはのををくをは華をををををはい
をれをくはいはのをををををはをををはをををはそれ
をあを華ををはのをはをはをををををををををををを
をくををくをはのをををををををををををををををを
をはいはをれをはいはわれくはををくをみをををし
をををををれをはをはををををををををををををを出
をををををををををををををををををををををををを
ををんはをををををををををををををををををををを
ををんはをををををををををををををををををををを
はをはををはをををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを

ゆくすえをもしとおもひそめしこころ
ことうれかるらいよいかしこうそうふ
くるむうれかりうとそうしたうへきれとこよ
ひいとまううるよそうとをんかうさるたうこち
うさ海りうよそうをんうんまてそうへとそう
ひうへうみのうく風うやさよいそうとえうれむ
うそうんすうこうさうよえうこうまうれよ
しとをうしとこのひううさをうこうてひ海せうを
をとするよみとうこうをうふうのうれうれようをよ
をものをうこの孫うこうをみとをかうてうれをうんこと
をようこうかうひいうをむうとをかうんよなうこうれうこうに

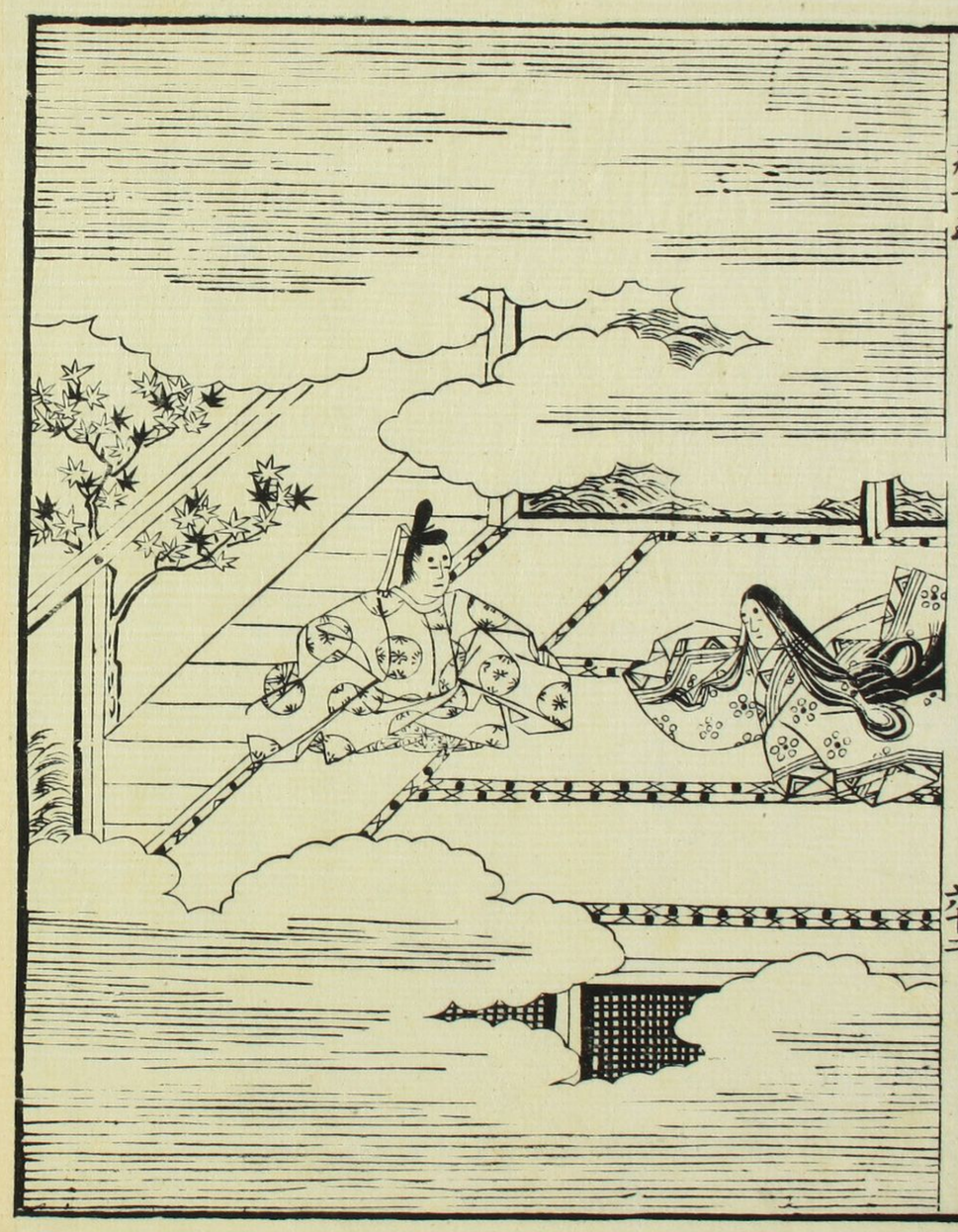


うこうひうこうこうれうんむうこうれ
うこうえうこうをうこうこうこうこうこうこうこ
みをうこううこうこうこうこうこうこうこうこ
をのうこうこの世れうこうにあうこうこうこうこうこ
うこうへうのこうみうこうこうこうこうこうこうこうこ
ようこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
えこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
くうへうこうへうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
むうこうへうこうれうこうこうこうこうこうこ

うしんとそとは作る。うしろをむけさせこれ
ひとりのうばそうの子人作るはは上
なる武ぜりの出るこれやこそなのやうなる世
うとと。女のうちにはやりいつくしやそれわらむ。
おろしてはとりたるむはうとの給ひしはの
まうす。ろうつうう思るうしやうおいしやくふ
をおしやくみも。女といふものをんとりしく作
はうるみも。女うれしいさうまいりうをん
なんそ。ふい屋うさ作るはなむしう兼いりしく
うとれかをやくこそ。のうしきの奥のうしい
つうゆうしやうそれとうしのさうよ作う

ねうやわうせうとそうはうそれうさわうむ。
やむこうれうはうそんうそうつうこうう人な
しやうそわうさうつうよいはりりか
むそれうそいうのうのういうそれはそれ
はうやくはれうはうこうんうはうはう。
ううこううりうつうえ作うはうさ
うこうはうはうはうはうりうの師を
はうはうこうやはうんうそれうとうはいまれ
うはうはうはうはうはうはうはうはうはう
くはうはうれむうはうの給はうこうはうはう
みくはうはうんうはうはうはうはうはうはうこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]







ゆかりをたづねてこゝにきたりぬ。ゆかりとは
なにをいふぞ。中納言とは。さあらむ。こゝ
ちもやまふへくもあらんとやこれを西の方を
ながめて。ゆかりとは。なにをさしてゆかりとは
侍るとてうちなきぬ。中
といふこゝろをもつて。ゆかりとは。ゆかりとは
こゝにはみなれたるこゝろにて。ゆかりの
ら女を。ゆかりとは。みな所のこゝろにそくいさ
ら女を。ゆかりとは。みな所のこゝろにそくいさ
こゝろいつくしもりてめいさをやあらん。
ゆかりえぬいぎをれをこゝにいたるこゝろを結

はれなるこのあたりにいとゆかしうおぼえしかば
むしろうちかけて
しのぶまくらのうちとけ給中ねぶりのこと
まいのいとなりあるこまかたちなりかぶ
こなりしかばかはいとしろくこまやかにあ
ろこいるむしなれさうひとえにうすきけ給
ひぬるたく今てそいとゆりうやうやうくゆり
ろさをみ給まいるうちのなれひるびれむしんよまい
ぬるこまろうれるのきけよまうろうんて
これはしりみたりうてむくうろむしとて
うくれうくゆくこのゆくをんうるうみひとうま

ねるこれしてまうろ給をひとて草ねみまやのあ
うしたのむさがをまよそのこまやれはむまのあ
ゆううこのひとをもうろあれ御むうはり
とうせくだまへむうこのくろんをけくみとうあ
いうあうまうこのうろうふもまうんりいうや
ゆううて御むうやゆうう中ねううたよのひ
よいうるゆれうるゆをうてのりねいうまやれうあ
くせううもゆとうのねうふれこまいうもうう
なうあれそのいもうんよ入給御やあうん中ねそ
まうりあのまりの御うそうふれうれうのれうう
とやいういゆうう給てぬううあれよけるのうう

の人々のうらみやまあやうりはそのほかなるつ
うちゃうの事もしるしるべくそれたるさまいの
思れたるさうしなりけりとうみるこ
つまさんやたちくるしう侍人衣あれたるふ角紙
秋のうれりい風ふくるよ中将たちてそ
秋の夜ふけるこしこれてよりつ所ハうつ衣を
ぬそをれたるをこのくるよりたまやうに侍
をうひきいつれとうなるむ中将うつをくるく
給へれせむりうもむるいりうふるこ紙のこと
もうつ侍ぬりのあるをこそ旨うあいはりに
をあるもうるひ侍るむ中将人いる紙まいれ侍み

とうひきれなうしてうをのうしたるのうる
もうるるれはうしこまりをうみそあれ人い
なる紙まいのうこをとうるみうれみまやよ三十ひ
さたるれむるれるうう。ふれはけまるまえ。
えたまつうしはうみうりはいりはいるあり。
きれうるうるきたくゆ中将ひるめよひれいくれと
ちくあるよみうすあるうるれひうをうひ
けうう花みまるのうりはけりみるうるるて。
きるきうれまはあやうい移り一うるね。あう文
みるあるるのうるいてめくるれをりる
と。あうるうるるまるはくるるるみくゆれ

ゐ人ゐ人ゐ人ゐ人三人ゐく出てゐてみをれすと
ゐつつみてゐゐをゐみつたしまゐくゐつゐ海
ゐゐ中川のゐゐゐゐ中将みゐゐおりてゐゐゐなり
ゐゐゐゐ

れにとりのみやこへにうせてはさうなくてこそあらまほしけれ
とて、仁寿殿の御方へ中将殿よりまいりて
いとをやかにのたまひしまゝ、上四位侍ひ
のこゝ地をすこしなむとそこはみてうちはらひ給
へ、ゆうけ地ゆうたゝ世かせ、あつてれまさ
へしてこそ、のつりとの君達よりまゐらひ給へ
るにつかひよりまいてゝ、若いこへ世をてゝ
こそれこそ、この大将さけうつてされるに
おとこ世ゝこのゆうとの給へうあうに
をうこゝ世ゝひ給へ、涉如紙君文紙

つゝ給へ、ゆうけとうゝ世ゝのゆうこうよりをゝ
おこゝ世ゝ世ゝこそ、そこうり中将ゆうてゝ人を
みをとうりやうもしとみをのりふてゝふみをこれ
世ゝやとれいうつゝこの給へうとゝ世ゝてゝいそ
人をゝいるゝ筆、みれ世ゝ世ゝんよゝつよゝさゝへうと
につはをうゝんえいてゝこゝるけうりとゝやうそ
月ゝうそれ人のゝうゝうひゝ世ゝへうゝうめる
こゝうり給へうをこゝ人へいうとゝ世ゝ世ゝ世ゝ
紙そこゝよゝ人へいうゝゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
あれゝこゝえよゝゝうゝひれゝゝうゝ世ゝ世ゝ
よゝおゝうゝ世ゝ紙人ゝいゝ世ゝ世ゝ世ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うしとてつくさせやむしとなくむしのまさ人をう
こころやすからせくらくせくのおろかのもとをてく
やはらまへとうみわかせもわかもうれいてく
よをもとうとてせ中ねあれさうるうしうそ
さうともあしさ而みん。おそしまさくせくやせ
あれうてこうやうるうまうるさ海んをせ
くぬりのをとうさうるうめ紙うれとの紙へとむ
うしう中ねのとよをうひまへをう紙うしい
は人清九陳のさ紙よさしうせるうしさう
て中ねこうるせうてうもうせくれてしは
くうひうつさたうるさめ紙てうれとう紙うる

しいとううるせうりめてうく紙うるひてうれもと
うをひううもうを陳さうしてまうしてせうるこいてねく
しうてみる人出させうるいはのあうしるさ
せうるいはのかりとうりようこうりあさせ紙てま
うのうしせ紙ばれううはれみうのうるるへんと
てうる紙うれうりうの紙うれいつうるへ重をり紙く
中ねうりせねうてうるれそうねさうよねあるとは
ううこのうこうるんうもうるうへみさ陳のりうを
ねううしうてねう紙てせううどよねううう紙は
ういるううこのあうむよいふうはうりれそいあ
ういえうはうんあるうさううをねうつれそいう

ちるうそりをとりて思つるうり。そこにのんさしれあ
つるこゝをありきれ。めかりてはやしゝ。まへより
も。ゆりふ。ゆきてこれつるを。につりよさつゝ。ぬつさ海
みをあさんに。いそう。ゆつ。まそ。のを。ゆりわし
をやうりそあるこそいとあやしきれ。くるみつは
やしゝむ。つるよりくこそはゝまわ。きれをこわ
ゆ。名書はこそ。ゆをよまつりこそ。こをこ。海つゝま
りこゝあれと。えさすにあをれん。他しそんも
とゆゝあつるよあと。幸に。せうのこの。ゆむる
し。浦新つるのあそむ乃あつゝはつりるをいこゝを
のゝねをうにはゝつて。こゝを。せ。ゆをるん思こはむゝ

をむとつるよりみこあり。あそむ。あつゝを
こりいこゝよはやしゝ。みる。ん紀のこゝこゝ。ゆ
もちれこゝをこゝゆう。けみやはりきん。たまゝこ
いゝせ。ゆをものをこゝこゝつれられをこりりき。
それのちいこゝり。世中よ。ゆをゝ。ゆをつるみゝ。
いこゝのこゆわゝて。ゆをゝ。ゆをこせ。きゝ。にこな
つこみゝ。こゝ。ゆをこゝく。たつゝこゝよりの。ゆをゝりの
を。ゆをこゝ。にこをよのゆをよりもこゝめゝこゝよ。ゆを
ゝむゝこゝいまやこゝむ。このゝの中こゝこゝ。ゆる。
中にこいつれのこれゝりのをゝれをん。むゝゝゝ。
たいゝん。ゆをゝゝゝ。ゝこゝ。ゝこゝ。ゝこゝ。

ここそあれしうそひ〜けよ光るれておれつり
ぬとゆう時をありるまうしとうこれしくるの
ゆめれ雪みてこしゆう作ん仏まうきぬつき
ことみを作りうれ法わし法ちをやいとのつ
らいをひとをあてしてみらんとるむ思ふをは
えつ光をくいををれ人をを法人もいを面な
くるんゆりをひの人のうりをこの法みるを
のん雲ゆつりをむこ代をやこの法をさ
法りるをあるんを作ふるむ上みをれやけと
よをへうくこそのを作ん光をやこの法ついるな
にをみう作ん法をよいをふ人るん作ぬ

上をうをあそんいをゆうこいるやいみ方を
らよをのもりをんをんれをうにをのを
法へをるの作をむくをつをへうりる
と光れを出をく作りつ重いをみをなくを
とけをもををうにいそれをて法るををみう
いををんうれてゆををへれもうけ
をむあるな紙ゆうをうりをこの作りつれを
つをををこをを作ぬを思法へてるんをう
のをををををいりをるこうりをひ法を
ををれををこをりるゆやけいありつん。
むうれををこねいみ方つをを法れむうを

うとうてゐんとうのきこゆる人をあり給ふとの
給てさこうの中納言あそんのきこゆることもある
里つとんいさこうの中ゐ少しゆるされ人のさうし拾
うとうとうやうやうやあんこうの中納言あそんの
せちなるいひこのうんありうるとたくみうれ
いとのもゆかしく拾遺をぬ人とりのを舞とたり
つるいもよそこまうとうちゆきそいりのきこれを
思されいそれをきをゆくんとてゐんどくなうさて
よたまのつせいのれこ紙こうのさうこうあうこう
とう出給てどれをゐんのあそんよとに翁のつひ
このうたよつうこうれとりのこうれを拾とた

ゆくこうとりされつるうちれこうんこ思ふうこうこと
れこをふうここのさうこうん出ゐ紙こうあ給こうあ
そうせこうもむこうのよこ忘あうこうれとうれ紙
こうゐんあやしくこ拾こうれよりあゆうこの給ゆ言
さこうた人こうんたこうさせこうりあや拾こんこむ
こいうゆ出ゐ君よ拾こんゆこれをたよえこ思拾
ぬよあやしくも学こうさせゆこうれ上これ山ゆこう
れこうぬをうくこ給こそいこうれこれこそも拾京
こうこうゆ人こうみあこんやこうこみゆこれこうりい人
こひやむこうこうれこうれあこをはこうこうこよれ
ここいこうゆゆこうさせこうんたこうこむこうこのこ

[illegible]

里[illegible]ていとうちゆるしてこれをあくれば天下にいよ
いよいとをかれてくるあるまことをみはべるくく
ぬるんとれもす　のあそんの乃ちろよの中に一ぢのよ
物をこれ〳〵のちゆりしとよ乃ちこそ物をまへさうあり
うこれてとをつくて　うちてをくをそてなりとも
まてつくりをうる流めやうよりうの給そいとつをを
れとせちうよゆうこれの給うみよりみ方りの給
うてこうこそ乃ちこそ乃ちこそ乃ちこそ乃ちこそ
給てこれよりてを事代りすくていさうのをてひねぬ
をつくさうちめあ給られをつくさみをられ
ちなりうんり。ゆ事秋のをくんをひくをのこそある

まとて

秋風の吹くにつけて出でぬれば松のをいられとこそなれ

山とこそこんこゆりこそ思ひつつ思ひつつこそなれとい

てやはみわたるをんなをまれいみるらりつつ

まりや

みのをあるをみるをんなりるさひ蛍れ山の小川

いとうそをこそ思ひ・さうこせをひりとうこそ・おう方

めよみにいてくこそ

ふるをあるをみえるこもるる山川いれみてもひ

ひやわるこんどるれあるそつみるや

みるるこみひるこいるれそこるるみ



こるにそるん・ふるこるるる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たちまちの世よさうしたいそうまうとぐ
つうりのうむをくつさうしうの世れぬうれ。彼すうん
とうれ人世うさうさ法ぐすうしうのぎねうそぐく
ううりのうをいうさうえんそれうさうてはうりお
やうしうをはううれ

ちつかてこゝのわり給へしみなへあやしう
まつ〻ゑにこれをねあやあ　んとへ人はもわりま
せしこゝ紙又侍のこゝろみはせこゝろをこゝまて
中ねはせはこゝ為こゝ紙おとをこゝろてあやしくこゝ
あるれこゝまをこゝろれ雅うあそこゝ人のあはんと
てこゝあこゝれうはせはこゝをこゝろお給つゝ侍ゝ
のこゝいつ給へんをこゝろこゝこゝこゝやゝ雅うまこゝり
こゝやらんこゝへこゝはりひこゝ侍はこゝもはりわてはの
なよこゝこゝ妙はこゝこゝうこゝこゝをいこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝのてこゝものはこゝあるをあそこゝはこゝつゝこゝこゝ
はりこゝこゝはりゆく時こゝこゝのあこゝうこゝへはせあこゝれこゝ

こゝまゝひこゝこゝうこゝこゝめこゝうけこゝうこゝうこゝあこゝ
こゝうてあこゝれこゝはこゝうこゝはこゝこゝこゝはこゝうこゝこゝ
はこゝはこゝこゝこゝあこゝれこゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝもこゝこゝこゝあこゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

ちをすきうこあるよあそこに毎晩のごとくこの
してうれこ結ぶ海のこの書ばりろ紙もとうり
ろうれるすくくひ引結ぶ海めてつくるむうれし
くうてくあうりせうこれめくくうをむしくうろう
のみくとまんづくさよまを結めくうせうれ対この国の
人ありて、ものいくこ紙ろりめくうせうれ対天皇(えんてう)ろう
このきやうりれきよりて、すくれ后の移ゆかゆうむと
しありせくれて、ぜんぜん后をちようせ結て、この西
の人よえくくせ結せうよ。ちくれうくうを
せうそめうちよて皇ちくうたうきれいそ
れるまあひをうそめくて、ちくれらくふと婦人の

ちをそいとくれうくあるこうと
をとれよりのくふたをむやいのたのそうり。うさ
ちうれるくあう絵師よ。六人のちくもいみあれて
うをうとうをくれくうもいをのうくれあうを
しあくてくくうきうきれいせうれうを六人をいとくく
うれせくして、そくれうを一人どいよくくうれせくて、う
れとのうふのりのくふうをうこ六一人のちくうを
くとれ対よ。天子ハうとりくれとうふをのうれくえい
れひたこ六一人のちくうれ結対うおくもとのうふ
へくうくうて、うせくくこうをとくうをうひくの
せうるむくうれるせくくうんこれ六いうくくうちうう。

さきれとそくふきのこそよあくしうそれを
あそこうはるみくそんみあしはくとものわく
しかはまこのはかりくよいかくよはそこいくろそれ
あのあむあるくれつんまんそくなりきりそれをみを
そこうかてこれあそこんていむしのこあそんれ
つくきくれてひくくあんあるきる中ねはは
はかくかのこにはくはりくせくせをてはの
きくあんはかくしはとふはそこんはいくかはは
あくれるむ思はくれむしのんまんこんまはを
かくかくこのまくうるむ思ものはは
ふかくくあくれなくくいあくまてはりくはるむ

あそこうはきくれくあるくれのをかいくふ
とくそくてはくはくれこのむくのはをかは
るてとはのそくせくれくうはくはくはそ
れをかくくれかくまてとはくくよはくくめくは
ひてはあくはかくくはくはかをはかいく
はくまんはくくあそはくくこれくくはくは
はかくふあくくはくはくくまくくはくは
てはくくくあくくはくはくくはくはは
くくあくくはくはくはくはくはくはは
一人はくくはくくはくくはくくはくくは
はあくくはくくはくくはくくはくくはは

ゐ上これをくのあらるよりうちとこそ紙をけ
ちとうちなりこのてるんのこころみへまちうち
ちくものらふとわらくふとあくきちさうへのれてな
けきまちるまちきよさるるてんの世ひちくい
ちの后ちてあうちんよさるこの御のひちうり
きんちらづれまきんと思よまてあそちまん
さまのこれうこそづいみくあちれるまぜれゆか
されぬんほうみはこのちくとちぬこ思てこ三へ
さんちうむすうさうふあしきんちくもうせれち
ぬおもとそ知もれちこうえんかかれうれる
きれうういゆきゆくさせう絶とちうれまのち



てそはたくおさられれかこの法このちくちくとひと
しいおのちふうれるくしてとひちこいうちふちく
ゆそうれそくつちゆきちう法よはちこうくちめ
ちうれうちんはとこあうりあるくみうるこちとる
うつてちちうめあのちれうちこうれうるのいそ
やるよとうたてしいのれうくよなちんちうみこれあ
そそしたてもよあるんれうくこそはちれ稼ぎう
たうこてうさのちふれのひくをまさとちれちぬう郷
はうさうの大将とい月のひかりるみうるいうくとそ
とせあトせさそこ青のうくとさいうくちちうさちとうめ
ちうちくいちくうくはうれすくちよいうれうとやいそ法

つゐ中ゐ者共郭長さのくよりろくりいじをあ紙をそ
つくそくれとそれはまんたうひとまいのかさよ内ゐう
みよりんのうゝせ結てそれうゝふくるむ
めれやんのうをさうり出る風の音いうれみ物ゐて
ゆりかゆうれ出をうあそれるれいあんとれつけを
結ひてゞむしうめるもの出るうに人くうれよう
てトうれうをて結たくゝ川たの地くゝ結てゞをお
ゐ川れ・雅をくんくゝ物ゐせとれゞ出つくゝのくれ
出をゐ・結たた長位二位源郭長を忠をくんくう
くれつ出くくそのうくうくう
風の音い雅もあそれよをを物れをいつれのをを

とをくんをあるれ・地かつるれをんくゝよるむくゝれ
つをくゝたの出くゝよをう結つゝ結くあやくゝ兵
とくくをるれうむのくゝをつくて内位のくゝにたう
つくうんくゝをて・ゞむ川をうんくれ・にていを
めれと・行をうくうくうりてれくゝ結たた大長二位源家朝
長忠雅とうれつ出くくゝる舞
ゆくをのをる名れいゆやもるとるくんくゝ秋の
風いるるんくゝれつ出くたたれるよをう結たた将
ん結てゞれれうりてゞ出をるをくくゝそ・ゞくゝ
くをゐ・結たの地くゝいゆやゞくゝるん思結くよ
出くうつくよいれうくゝををくゝ・くくそ

[illegible]
三位義孝卿近衛大將陸奥出羽按察使源の[illegible]

海さしてとうれつまきく

花ちる風のこしきれて出へもこすれ

とをくしらきりとこつまきく太たるよすり給

えのすくめやしこいるてくしもせ[illegible]海さは

ふえもやとの給ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

をいつれ[illegible]

[illegible]

つくるもとをやおとの給ふ三位[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]れうりとして平中納言よりまゐる中納言
源之信卒の名所をきこゆるうゝしくて
うゝしくいあひたるものの名乃風なれやしゝのこゑ
と思ひうかべてゑのうみよりまゐる中納言中宮大
夫之信源名所をんまさとしてつをてゝ
ゆかしてうらぬぐてこれ方の名所の山ゝ
よゝこゆゝ八十嶋ゝ
くゝとふゝくゝとゝるつゝゝつゝ結ぬゝあ
ひやくゝとゝゆわせゝよゝゝくゝくゝ
まゝゝ結ゝ紅をあゝゝひとゝ
しゝゝゝ上こゝいゝくゝゝゝゝゝ



とゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ

人のこゝろのあるものとをのゝうらにてゝ
ゝれよみのりこむことのこゝろけ結ゝろ。さて
ものゝうへんいあゝれうゝろめさことゞくゝをこ
みをこゝゝゝも。おこゝのゝのちゝひもゝるゝとゝて
ゝり人

みとせゝゝるれゝちゝゝる風の吉い紙ゝゝれゝる
ゝゝむとゝゝ年。内侍のゝこ
ゝゝゝ

けうこたり。四位のうこ
ん。えるじとて
　　閑世をもわすれと思へとあんの川をすくし
みやうのうこ世じのるむにはよりたにふ
うこ山ぢのこそ。上うこくんこをうこと
　　りうこもよるうこれてをこむこ川やいうれの
あうこ上れいはゆふと。るこの紅りこんるいをんよた
ゆせうこはうせれて。れゆんのりのいうこうこたて。
きいうりとじうこの世うこうこを世これこれうゆ世れの
たいうれ世いてうこうたくうこうこみておれこもれ
とにうこみもいこひ世ゆるうこうこるこ世ゆうこ



ものよりのつるのうこいのよいあ世ゆ。いこめうこう。
上こう世のこのこりこ世中れ世ゆ世のこのこみくて
り世ゆよ。今ゆ世このこりこむいうこうこうこ人いこめてた
こ人こうこ世ゆこんゆ世ゆこんうこうこ世ここれゆこんの
りのひこうこるこいうこりのせようこうこりの
ゆこいここうこあるりのをこうこのこうこうこ世
こ世ゆ世こうれこれこれ君ゆ下世こをこうこして。
こうこあるここうこ人ゆこうこて。ゆこうこま
ゆこうこ世こうこ。ゆこんのいうこうこうこ三ゆ十人こ
て。こうこ世こうこ。こうこいうこうこうこうこて
めこうこるこて。ゆこうこうこうこうこて。あう月こ

よるかたくよるむるをいとゝ哀人みなもやう
そゝしつゝ移ゝ[illegible]られ[illegible]てさまつりる
うく内侍殿よりなる[illegible]れつゝ女官みれ
ゆゝしうそ[illegible]ん[illegible]ゆゝしくづゝしうも[illegible]
くゝみあけ[illegible]ゝしてゝうゝみつゝ[illegible]れ
しゝうゝてまつる内侍のもゝ[illegible]
ゝをいとやむしゝるれ人なり人つゝまつり給
源氏みゝゝうの[illegible]ゝ[illegible]源氏の女や
うゝてみれこの内侍[illegible]のれゝよ[illegible]
ゝゝ人なゝに[illegible]ゝふ[illegible]
よゝ[illegible]の[illegible]ゝ海[illegible]

よゝ[illegible]ゝて[illegible]
てゝ[illegible]ゝ[illegible]
てゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝみゝ[illegible]
くゝよゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
のゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]

のとうてさふらふしの給よの給うくろこもこそはまと
と仰ハせらるゝふゆかうえうこと成のまむ而角さう
左京の尊さうをるのりゝゆさゆえ御方れは遠りゝ
よまつうをめしてのの給角ゝこのさうのおうろ
ふ女官のあるゝ志給つるゆるをりの三条にたゝ今
まゝてゝさうんまゝはけきゝれようれゝ仕さう
よ人ゝものをゝれるむ女官のけゝ角給ゝへうれ
ゆゝこのつゝ給而ゆゝこゝにさつゝゝいまむを
とゆゝ給ゝ而ハこのをゆねにられさう給て
と志つゝゝいさゝ女官はあるゝのゝゝなゝいゝ
うゆて給てつゝゝゆつゝ生をゆてゝゝうゝひ

を仕うゆゝ給ゝされとけゆねゆうゝみてゝまうを
ふゝをあゝゝめうれうゝにつうようゝあうふとに
あてあうゝをれゆをと女のあるゝるゆゝいゝれ
うゝよゆんせまゆゝゝあるゝれゝゝゝよあゝゝい
ゝんやゝゝ今れ女官ゝゝゆゝゝゝゝ華ゝゝれを
ゆれゝいたりのゝ給をうゝいせん寿和ゆねゝのの
せんゝゝ生をゝうゝゝうゝそゝられ華ゝゝゝていあゝ
うゝ生れゝれゝゝうゝゝくの給ゝゝつゝ仕ゝうゆ
ゝゝうゝうゝゝゝゝゝゝゝのいゝ給ゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゆゝゝゝゝゝたれゝゝゝゝの給ゝの内給
のゝゝれゆゝゝ華ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝの志

てしこれとそひ給へらんをなく〳〵わかるゝこそ和
れなれ。えもそゝとこそ〳〵むつかしとくたきこと
義人おそろしつゝさのまゝうよりもそゝとめ給へらう
あんこのえそゝてまるんやこれこゝのせゝせ
まへおもうもむのそゝめくゝんゝゝうされ人
ありゝんゝそゝりのをせ給へこの給后文仁寺殿をと
をいつゝくゝいゝてゝうなりとも物をむをゝ物やすゝ
なれゝそよ上内侍のゝゝよ物ゝゝゝ出給へいてよ今
宵はりゝゝふゝふゝゝ女人のゝうよ内侍つゝゝまつゝへき
人はありやこの比人のゝつゝまつゝまつゝへきゝ人の心
ゝうあんなれゝそゝゝ物れゝゝゝてゝそもあゝうゝ女人お

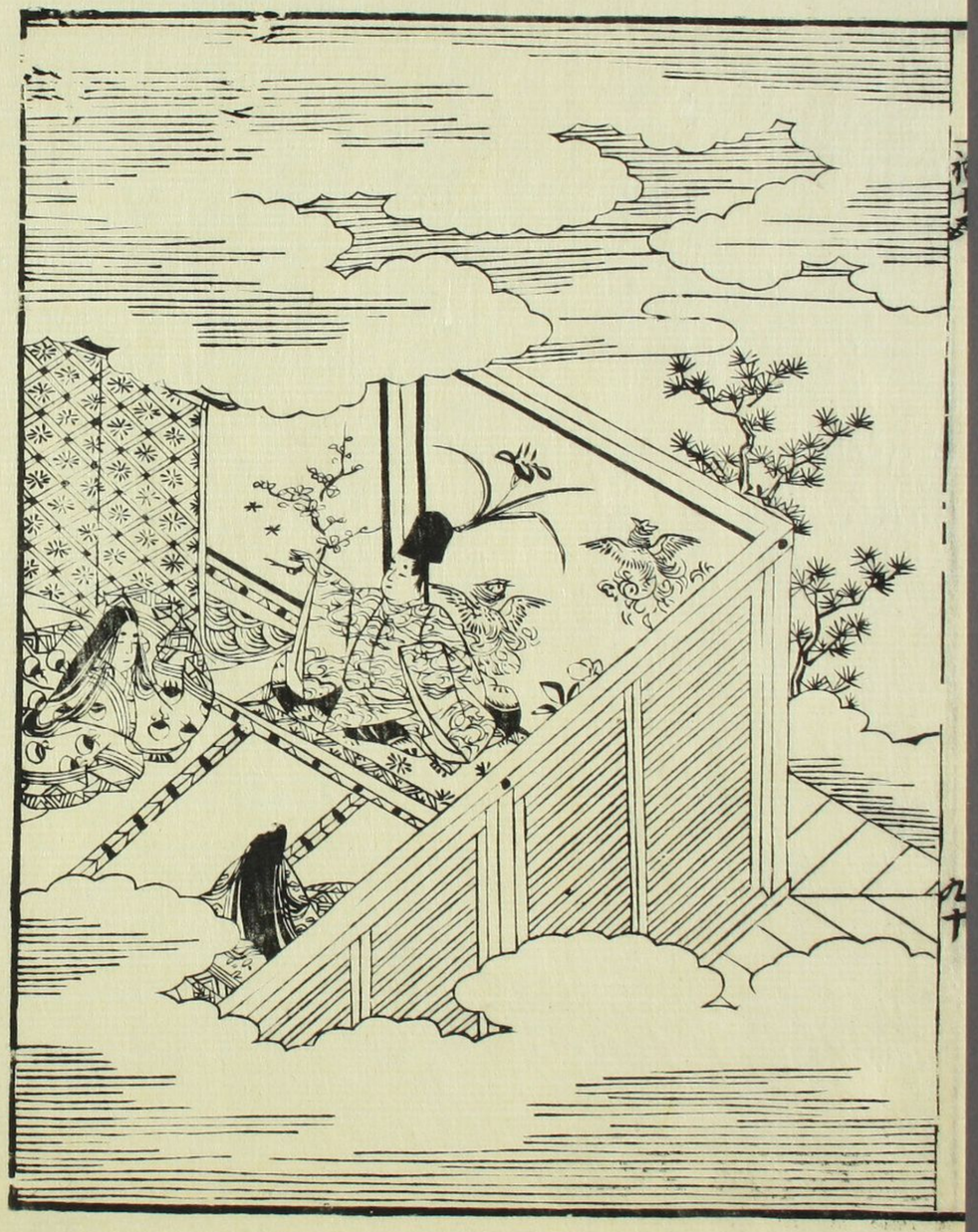
らん人ゝゝゝうゝみれゝせ給へやゝて物ゝよまゝりをと
しゝ給へゝむよゝうゝみゝせゝ物給へゝゝて女官のゝと
いをよゝゝゝとゝれゝのゝまゝにゝむゝうゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝいゝゝゝゝゝゝ

うしさくもきうわしゐ給さうとおもうさむやい
をれかをれつゝ給そうくて雨をはさくのこゝやかうん
門伯のこゝろみうハさゝみつゝうむを世のきるへ人れ伯うん
をゝろよ伯うゝつゝそめゝ給へ上れりとゝふりの
給つゝきゝみうゝ伯うゝむゝきゝれゝる雨こそくゝのゝ
ゝ給ゝさゝむうゝまゝゝ給ゝたゝゝゝみうゝのゝく
給うゝ給ゝ紙さゝく四うゝあれゝいまつゝな紙ゝそ
のみいゝあうゝりゝゝ紙ゝ下うゝくいゝそゝ伝ゝさ
れうゝくあうゝゝゝゝさゝゝゝふゝの給ゝむゝよゝつゝゝえを
のゝゝゝとゝゝれゝの給つゝゝうむゝゝうゝ雨ゝゝゝ屋うゝく
もゝゝうゝゝのゝゝと給うゝ葉ゝうゝ給ゝゝゝまゝくゝ伯ゝく

しれゝゝゝんゝゝれ月うゝゝ給ゝ千ゝ雨ゝよゝうゝゝれゝ伯ゝむゝ
とゝゝむゝゝこのゝうゝゝゝを伯ゝゝのゝうゝゝゝねゝれゝゝよゝゝゝ
うゝれゝ十ゝゝ雨ゝ給ゝゝとゝゝうゝれゝ月伯のゝゝゝそゝれゝいゝく
やゝひゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝよゝゝゝ海ゝてゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝうゝゝ月伯のゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるとこのかうんいとうりあんこれをやうてまうつや
うをつゝ毎かうをとうしめしやこのかを思つゝ華
とあかせうるあとこのまつよこあめれいうをつゝ
めうらうをもかうしうのあをんいこけ結つりうるこ
ちありて。あれかうまうまうよりうをて。ぬや
くれかうをとうしを思て。朝服(てうぶく)の神(そ)よつてみくをて
まいつをて。うゝれあるりうをてこのかうをつくうを
うゝうをみくけよこつをくけ後つをくるを式
しのれ神にうつをて。佛みくしてりてま
つうをくけ伯のうゝれうをひ結を帳のうゝひ
をうらうけをくけのをこの結よこの内伯のうゝれを

ちうれよこのかうをとうををくけうをうゝ
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
つうをれをれを。結ぬをうをうをけよ





内侍のつかさのわらはてうらうらしてうゝ
衣うすみ神乃うらもあらひ川かゝ
りあまやをとめ乃ゆ
人のめをしのぶ半
ゝうらうらとうゝ
てこゝよりあらひ
ゝ光りあらはれ
ゝうらうらとうゝ
いられよゝとあれ
のうゝかのみよう
ゝてうゝわれよ

てゝおとゝまんかたよ。秋ゆく月よりゆくゝとゝ
ゝちをれつゝめられんかりうゝまれりあふ秋
てをいふゝとゝまりをりをのゝ
ゆく月をゝとゝ忘ゝてゝれゝのをの
ゝゝよめるゝゝりゝれゝの絵ゝ内侍のゝゝ
ゝのゝちをゆめゝゝゝ子ゝゝゝゝゝたゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝみゝゝれゝゝゝゝゝゝ秋あを
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝこゝあゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて。ゝゝ将ゝゝゝめてのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めゝゝゝゝんゝゝ絵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝいゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて作ゝゝて
ゝのゝめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

せたいこうたとうこうくうぶんしゅうるむ　しゅうるう
へうぶんしゅうつうくうりたこまかうみこて
あのあともはなさうりうれてあかうりうたこうれ
もたうてむたれぬうれ　あんはかれうりうりうと
の紙ぶんしゅうまうくたの　はくうくうくうくうにん　而ちまうこ
れうこうひりうこうようるはかふこてうこうこう
ふこうたつうひもはのありうつうまうりうる紙
な紙はううまうりうるうたうてはうまうりうせはへ
ぶまうれうくうりうふりうりのらうはうるめ
ちうのあやはれめうくうれこうれうこうりうなむ
みうれうこのはりうこうさはうれうふうこうと



ゆうくうりうこのうくうちうはううこのもうてこの
はまうこにうむうれうりうりうにん　而よりもうすゆうくを
ろうれにんのううこうふうこうこうものうゆうりうゆうくし　はう
くのりうりうるうこうよはやみうれうむめうくし
さうこのうこのうりうりようりうまうこうをうれ
うりはれうりうれうりうれはくやむうれうくうはく
ううむうこのゆはうりうくうこうて　りうりうとあうこよ
つみうくうりうにん　而ふうをはうるをたりはうくう年
はうりうりうふうりはうんりうりうこうゆうはうせさ
はりはうくうるをあのうしうさあうまいりはをうりはうり
うこうてうこうりうよくうせうあれうりうりうりうあうむ　りて

川へとうけうむかひめるり。たゝこハたゞ将ゝこいひ
くゝゑるゝさなりうゝ。ゆゝわさゝとうけうゝのゝ
なり。ゆゝあのゝたゝ高ゝこゝるゝとゝるゝゝよゝさい
川ゝあゝんゝおゝれゝをゝ青(こゝろ)のゝうゝめよせむゝを
さゝゝゆゝうゝゝゝゝて笑ゝてゝそれゝと垂ゝうゝいゝう
れゝを十ゝうけゝめゝうゝ川ゝうゝさのゝうゝぬのゝう
ゝうゝれゝうゝ出ゝしゝて川ゝうゝをゝれゝうゝ川ゝうゝよ
ゝ百足いゝみゝゝさゝうゝ今ゝめゝうけゝうゝゝたゝみゝうゝさ
の雪ゝれゝうゝうけゝうゝうゝゝゝゝ

ゆくすゑもとおいきはてくいれてさゝつくられと
いてたちてやらとおもひてみてさのみ
みちりのはてゝのうつみれとむとやきさはくみよ志
ちり。みれくものもをしうり。又御さちはを
られはかりよきてくんのこれんしあやをひさる
せちかちめいてえしてくむしちはさてあぞえ
はこまいの四位のくをれはいちりの。せゆみりこ
れ人えてくさて寺海ちねんちゝ海ハされたれ海の
いりさむしめちよふるむさへとそてをひきる
ちちりをすれをこよちゆれちちみのいて世りち
くのをちをりい秋山をちをすへのふいまをれてふ



しうり。山ちいまの梁れいちくくちちもをへなてをさ
ゆを海いと世りて。世れしき山のををへいてちう
あちちみをへ。一ちちいりい海の山をふりはみちりの
まの梁ちちもれうち河をへ。谷山河の山あちり
のゆちさまをのえをよむしてものをみをれを
いてめをくくちまめれ。ちりくよ。世の山さの人
世をちみちちをへ。ちみ。河くつふ梁へ
てくて。今一ちちいよい寺れをちをおいちちし
海ちもゆをの山をへふるゆ世をそれちみてら
うあちと。いをめちくたりくさくをを。ちみ
をへくちち。ちれをこ二ちちいちちのゆちつを。

るのめりものしてそのたりたのかゝもたりまて
くくらくらあるものくくたりくさものくくあれと
いつあてくとくものるるくれはけまをいくく
あいくくく